

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		公表日				
なみっこキッズクラブ		8 年 9 月 10 日				
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・受け入れる児童の必要量に応じて人数を調整している	・活動の際は清潔を保ち整理された常態を維持できるように心がける
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・配置基準以上を満たしている	・引き続き行っていく
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・生活空間はオープンスペースで、トイレやキッチンを分かりやすい配置にしている	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・月ごとに子どもの製作作品で壁面装飾して季節感を演出している ・利用児童の入れ替え時、終了時に使用した道具・玩具等の消毒を実施している	感染症拡大防止・予防の対策を継続している
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・工夫している	
業務改善	6	業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・年間事業計画会議(目標設定と振り返り)を実施している ・常勤職員は年3回、PDCA(目標設定と振り返り)、育成評価、面談を実施している	・定期の人事法評価・面談を継続する ・年間事業計画(目標設定と振り返り)についても非常勤職員が参加しやすいよう工夫・調整している
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・2024年度より実施している ・2024年度よりHPにて公表を継続	・保護者等向け事業所評価とご利用に関するアンケートを継続する(年1回)
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・毎日のミーティングや合同ミーティングを行いそれぞれの意見を基に話し合いを行っている	・引き続き行っていく
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	・第三者による外部評価の実施実績はない	・法人全体として検討している
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・職員向けの法人内研修を月1回計画し実施している ・専門的なスキルアップ研修の参加は、職員個人で調整している	・リアルタイムでの研修参加が難しい職員への動画配信等での対応を継続する
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・行っている	・引き続き行っていく
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・保護者からのニーズや多様目(保育士、児童指導員)から情報を得て作成している	・引き続き行っていく
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○			
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・保護者様の思いや意向等をうかがいながら、半年ごとの事業所での過ごし方・目標を提案している ・発達支援・家族支援・地域支援・特別支援の項目で支援目標および支援内容を設定している	・地域支援については把握しきれないことが多い為、担当の相談支援専門員さんやご家族に頼っている面が大きい ・安心して就学準備が進められるよう、医療・福祉・教育との連携が課題である
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・月ごとの歌や製作、行事について年間計画を立て、職員に周知している ・小集団活動と月ごとに季節を取り入れた歌や製作活動を行っている	・年間計画を作成する ・児童指導員・保育士を中心に全員で相談しながら計画することを継続する
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・年間計画に沿って、月ごとに季節を取り入れた活動について計画している	・個々の利用時間やペース・課題を優先しながら、全体の活動を組み立てることが課題 ・職員同士が積極的に提案できる雰囲気づくりと職員同士が話し合える時間を増やす

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ、児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・集団場面、個別課題は健康・生活・運動発達や遊びなどを支援内容に取り入れて作成している ・トイレや食事支援は子どもの状況に合わせて対応している	・個別の課題を共有する為には、職員同士が話し合える時間 を増やすことが必要
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・活動中も随時声を掛け合い情報共有や確認を行っている ・情報共有のための、業務日誌(相談記録)に目を通してから業務開始するようにしている	・支援終了後の打ち合わせについては、非常勤職員の勤務時間の関係で難しいことがあるため、気づいた事は記録に残すように努める(業務日誌(相談記録)) ・重要事項は、個別に伝達する
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・早めの共有すべき事項については、すぐに話し合うようにしている	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・保護者との連絡帳に日々に記録を徹底している	・引き続き行っていく
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・半年毎を目標に見直しを実施している	・半年毎のモニタリングを継続する ・各職員が気づいたことを記録することを習慣化していく
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・相談支援専門員さんとのやりとりは児童発達支援管理責任者が対応している	・引き続き行っていく
	25	地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・医療連携等を行い体制を整えている	・引き続き行っていく
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・就学先特別支援学校の就学担当者との連絡会や見学を受け入れている ・事業所での支援の様子等の見学を受け入れている	・引き続き行っていく
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・行えている	・引き続き行っていく
	28	(28～30は、センターのみ回答)				
		地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答)	○		・実施できていない	・児童発達支援センターとの交流ができるよう調整していく ・関係する会議や研修に参加できるよう情報の収集をし調整する
		地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。				
保	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・地域の保育園のイベントに参加させてもらっている	・今後、交流・連携の機会を更に増やして
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・送迎時に直接、または連絡帳を使って状況や利用時の様子について伝えている	・送迎時の報告を継続する ・職員間の共有を徹底する
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	・プログラムとしての取り組みは行っていない ・保護者様と話す時間をつくり、家庭での困りごと等についての相談に対し、随時、助言	・保護者全体を対象とした講習会等の開催は検討課題
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に内容を確認しながら説明している	・支援内容の丁寧な説明を心がけ、継続する ・保護者へ説明する時間の確保が難しい
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・送迎時に直接お話し(説明)する時間をつくり、同意を得ている	・定期的または計画的な相談(面談)の機会があったほうがよいか 要望を確認する
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・行っている	・保護者全体を対象とした講習会の開催は検討課題
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・送迎時の顔合わせや連絡帳を通して、随時相談に対応している	・引き続き行っていく

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	・父母会・保護者会の活動は実施していない	・10月に実施予定をしている
	40	こどもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・申し入れがあった場合、迅速に日程調整を行い面談を行うことを徹底している	・引き続き行っていく
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月、事業所通信を利用者様に配布して	・引き続き行っていく
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・十分に留意している	・引き続き行っていく
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・どのように関わることで伝わりやすいのか、また、気持ちをくみ取れるのか等、個々に合わせて対応している（声かけの仕方、物の提示方法、ジェスチャーや一緒に動く、カード、画像等）	・現在の関わり方を継続：意識を高く持って取り組んでいく ・配慮事項の共通理解を徹底する
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		・図っている	・引き続き行っていく
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・急変時対応訓練を施設研修にて実施して	・法人全体で緊急時・急変時対応訓練の実施を継続していく
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・年2回の避難・通報訓練を実施 ・備蓄品を用意している ・非常時持ち出し用に全利用児童の緊急時連絡カードをファイルしている	・災害時・非常時の利用児童の予備物品の管理を徹底していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・契約時または定期的にお薬手帳の控えをいただき把握している ・緊急時（てんかん発作、発熱時）フローチャートを作成し室内に掲示している	・契約時・初回利用時、以降定期的な確認を徹底していく
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・主治医診療情報提供書および保護者申告にて把握している	・診療情報提供書内容を再確認し、職員全体に周知する
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・行っている	・引き続き行っていく
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・契約時に周知を行っている	・引き続き行っていく
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・当事者による報告書を作成している ・報告書を掲示・ファイリングして保管し	・職員に報告書の掲示とファイルを周知する
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・法人内研修を実施し、職員間の意識を高める工夫をしている。	・虐待に該当する行為について、職員間で意見交換を継続していく
	53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。		○	・需要事項説明書にやむを得ない場合でに身体拘束について規制を行っているが法人での取り決めにより身体拘束は行っ	・引き続き環境整備に留意し、やむを得ない場合が無いように努めている